

授業科目名	イタリア語講読Ⅱ	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	森 雅史	単位	1	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

- ・イタリア語における文法（初級～中級）への理解を深める。
- ・辞書を用いて、イタリアオペラ作品における台本や西洋音楽に関する文献の翻訳に取り組む。
- ・訳した内容からイタリアにおける音楽や詩を中心に芸術分野に関する理解を深める。

＝履修の条件と学習の方法＝

イタリアの文化、音楽に興味を持っていること。

イタリア語講読Ⅰの他、イタリア語の基礎Ⅰ・Ⅱ、ならびに会話Ⅰと会話Ⅱを履修済であることが望ましい。

＝授業の概要＝

- ・イタリア語文法（初級～中級）の練習問題を解きながら、文法のルールについて確認する。
- ・辞書を用いて、オペラアリア等の日本語翻訳から始め、学術的な文献や作曲家の手紙やまで訳す内容の幅を徐々に広げて行く。
- ・日常のイタリア語の観点から楽語についても解釈を試みる。

＝授業計画＝

- 第1回 ガイダンス：シラバス（授業の目標や内容の確認）
- 第2回 文法（初級）の確認
- 第3回 文法（初級）の確認
- 第4回 文法（初級）の確認、イタリアオペラ作品の日本語訳に挑戦①
- 第5回 文法（初級）の確認、イタリアオペラ作品の日本語訳に挑戦②
- 第6回 文法（初級）の確認、イタリアオペラ作品の日本語訳に挑戦③
- 第7回 文法（初級）の確認、楽語解釈講座
- 第8回 文法（中級）の確認、作曲家の手紙を読みましょう①
- 第9回 文法（中級）の確認、作曲家の手紙を読みましょう②
- 第10回 文法（中級）の確認、作曲家の手紙を読みましょう③
- 第11回 文法（中級）の確認、楽語解釈講座
- 第12回 文法（中級）の確認、様々な文献を自分の言葉で訳してみよう①
- 第13回 文法（中級）の確認、様々な文献を自分の言葉で訳してみよう②
- 第14回 文法（中級）の確認、様々な文献を自分の言葉で訳してみよう③
- 第15回 筆記試験

＝テキスト（必携）＝

＝参考書・参考資料（必携）＝

伊和中辞典

=成績評価の方法と評価の基準=

筆記試験（50％）と出席状況・授業態度（50％）

=その他=